

新型コロナウイルス感染症対策 中間総括会議 議事録（要旨）

日時：令和2年6月26日（金）午前9時～

場所：犬山市役所5階 501・502会議室

午前9時00分 会議開始

防災監：新型コロナへの市民からの要望や対応について、記録に残していく必要があるため、災害と同様に振り返るため、中間となるが、これまでの総括会議を実施する。

防災交通課（課長補佐）：（資料、時系列対応まとめについて説明。）

改善点や時間軸の対応マニュアルになるものである。今後も修正を入れる箇所があれば報告をして欲しい。

防災監：これまでの状況は説明のとおり。各部において、これまでの課題や対応についての取組を事前に提出してもらっているので、各部長より報告を。

経営部長：良かった点は、職員の感染者がなかったことで、交代勤務などの効果によるものと思うが、テレワークを実施することが難しい状況ということも分かった。今回のことで、テレワーク等の準備が若干進んだ。交代勤務については、サービスの質を落とさない対策が必要である。

広報について、市民への広報、国や県の施策の周知など、いろいろな方法で周知してきたが、市民にどれくらい伝わったか気になる。

感染者が市民や職員から出た際の対応として、時期によって報道発表の仕方がかわるため、その判断の難しさを感じた。

国からの交付金等については、スピーディに把握し、市の独自施策についても、迅速に対応できた。

防災監（市民部長）：

国の経済対策として実施された税改正については、改正された段階で公表した。

税務課、市民課を含めて、クレジット収納、キャッシュレス化の前倒しを検討している。

地域協働課は、今月から協働プラザを再開したが、密をつくらないように机や椅子の間隔をあけて開館している。

防災交通課については、コミュニティバスの事業者の職員で感染者が出たという情報があった。実際は県の検査ミスで感染者ではなかったが、コミバスに限らず、委託先に感染者が出た場合のマニュアル化の必要性を感じた。

避難所の開設については、来週の避難所担当職員の説明会で、コロナに特化した避難所開設方法について説明し、消毒、マスク、検温器なども配布する。

また、新型インフルエンザ等の行動計画については、今の対応と合致しているかを検証する必要があると考えている。

健康福祉部長：今回の感染症により、やらなければいけない事業、先延ばしにする事業の選択に苦労した。

障害者や福祉サービス等の利用の際の訪問調査については、新規利用者や審査が必要な者以外は電話によるヒアリング調査に切り替えて行っている。

また、要介護認定の際の訪問調査については、更新の方は要介護認定を1年延長することとした。

聴覚障害者対応の手話通訳者には、フェイスシールドを配備して対応した。

各種手続きについては基本、郵送での対応とした。

生活保護の関係では、現金給付を減らすために、口座振り込みの案内をしてきた。

施設を開館した際には、スムーズに業務を実施できるように、マニュアルを作成して手順化した。

高齢者等が在宅でできる体操等の健康に関する情報を発信していく必要がある。

保健センターの健診や相談事業、狂犬病の予防接種については、予約や実施方法を含めてさらなる検討が必要である。

民生委員による高齢者や要支援者の訪問確認を実施している。

生活困窮者の生活支援については、予想以上に相談や住居確保給付金申請数が増えているため、体制をしっかりとる必要がある。

コロナの影響で、事業者の減収が続き、事業継続の支援への検討が必要である。

障害者の事業所では事業の代替が可能となっている事業があるが、不正受給しないようにチェックする必要があるが出てきた。

都市整備部長：市民への対応については、窓口の多い下水道課や水道課は、郵送による受付を実施し接触の機会を減らした。支援策としては、水道、下水道料金の支払い猶予を設け、7月に受益者負担金の納付が始まるが、7月15日号の広報で徴収猶予を周知する。

土木常設員の会議については、個別対応し、日付を調整したうえで1対1で対応したため、丁寧な対応ができた。

苦慮した点は、休日に車で訪れる人が多いひばりヶ丘公園について、放送設備を利用して、公園内での3密を避けるように呼びかけた。啓発について、最初は簡易的な掲示をしていたが、今後も継続的に設置できるように、看板を準備中である。

経済環境部長：環境課については、コロナ蔓延前から都市美化センターについて、1日も閉館しないように徹底し、収集についても業者にBCPを作成させて継続した。

観光については、観光駐車場の閉鎖も行い、観光協会を通じ、城下町の来訪者にはポスターなどで情報発信した。

今後は、GoToキャンペーンに向けて進んでいくので、3密を避けた上で、観光協会と連携しながら誘客を行っていく。

産業課については、業務についても、3月末から実施できることを最大限行ってきた。

市独自の休業協力金は、県下で最初に対応し、家賃補助など独自施策についてもスピー

ド感をもって進めることができた。コロナに限らず、早い判断をしながら業務を遂行できたのはいい対応だったと思う。行政だけでできるものでなく、会議所やハローワークとも協力し、できることから対応していくという形でスピード感をもって足を踏み出すことがよかった。

消防長（代理 消防総務課長）：陽性疑いの患者の搬送は無かったが、5月から3交替勤務とし、職員の感染リスクを減らした。防護服等を補正予算に計上し購入をすすめる、緊急出動を行っており、消防署独自の感染防止対策を行った。

救急搬送については、病院側が受け入れしない事例が関東や関西であったので、今後に向けて、保健所等と連携を深めていく。

予防課については、施設に訪問できないため、防火管理の状況把握ができなくなったり、防火管理講習が中止になり、防火管理者の選定ができない施設があった。

教育部長：学校の休業については、県の発表が後になることが多く、市の動きを変えていく必要もあったが、市長の判断が早く、保護者に早く情報を伝えることができた。

課題は、保護者や利用者などに情報を伝達する手段を考えていく必要があること、周知の徹底や、スピード感が足りなかったように感じる。

本部会議で、行動の理由を明確にする必要があると市長から指示が出ているが、今後も気をつける。

子ども子育て監：児童手当の現況届は、密を避けるためには郵送による申請としたことで、職員と市民、市民同士の接触を減らせたため、今後も提出方法については改善していく。園内で濃厚接触者や、陽性者が発生した場合、休園、休館に関する内容、メディアへの情報発信について、フロー図の準備を進めたため、これに沿って第二波に備えていく。

議会事務局長：議場ではマスクやシールドの着用を義務付けている。発言が聞き取りにくく、議事録作成に苦慮しているため、演台と質問席については、飛沫防止シートを設置することで、マスク等を着用しなくてもよいように準備している。

9月議会の委員会については、議場で行うことや、会期延長、事前通告など様々な意見が出たが、各委員会については、部ごとに質疑を行うという対応で3密を防ぐことを検討中である。

議会中に事務局職員に感染者が出ると、業務継続が難しいので、対応マニュアルの策定を急いでいる。議員間では、オンライン会議の実施についての研究を進めている。

副市長：今回の総括は今後に向けて、これまでの取り組みを①市民の安心・安全を守るという観点からはどうであったか。②市民生活や経済活動への影響という観点からはどうであったか。という2つの観点から検証して、少しでもよくなるように考えてほしい。二つ目は、情報提供は錯綜しながら行ったが、検証して少しでもよくなるよう検討してほしい。

三つ目は市民が市役所に来なくても手続きできる方法を整理していく必要があり、新し

い生活様式に適応していく必要がある。郵送やウェブ、オンラインで業務を進めていけるように、これを機に考えてほしい。郵送がゴールではなく、手続きの必要性も含めて、精査してほしい。

四つ目は、情報の持ち出しができないため、テレワークがなかなか難しかった。セキュリティを確保しながら在宅勤務に取り組むことを検討してほしい。

五つ目は、国や県でやってもらうことは、市としてしっかり要望をあげていくこと。最後にコロナの感染は終わったわけではない。気が抜けているように感じるが、依然として、東京では40人以上の感染が出ているため、組織としても、個人としても決して気を抜かないこと。

教育長：6月から学校を再開したが、大きな混乱もなく、教育活動が進められている。

学校現場も万全ではないが、できる限りの対策をしながら進めている。引き続き、コロナを意識しながら、進めていきたいと考えている。

市長：コロナ対応をずっと進めてきたが、それぞれの部署で頑張ってもらって、感謝している。本庁だけでなく、学校や子ども未来園、消防などもよくやってもらっている。特定給付金や経済対策の給付金もスピーディに対応し、現場の職員によく頑張ってもらった。中間総括は、これまでに見えてきた課題を見つけ、その対応をしっかりとするために行うもの。ミスを防ぐということと、スピード感をもつことは、なかなか両立が難しい。ミスを防ぐ体制を取りつつも、早く動くことが大切。緊急時なので、1日も早く対応することについて、まだ改善の余地はあると考えている。業務のプロセスを分析し、よく研究してほしい。

大量の事務を処理する際は人海戦術でやった方がいい。業者などに頼むと、そちらの都合となるが、職員で行えば、こちらの都合で行うことができる。

国や県からいろいろと言われるが自分で考えて最善の答えを出すということが非常時においては重要となり、今回は出来ていた。

特定給付金を加古川市が独自システムを利用したが。独自のオンラインシステムを構築したということが素晴らしいと思うので考察してほしい。

これまで会議が多くあったが、指摘事項や指示事項も多く出してきた。それに対しての顛末が見えてこないの、見える化してほしい。

それに関連して、契約などの業務については、法的な側面を踏まえるように指示しているが、そこが課題だと感じている。しっかり見極めてほしい。

物資の調達について副市長からとにかく発注するよう指示が出ていた。発注対応は少し甘かったの、改善してほしい。

動画やオンライン会議について、一部では積極的に取り組んでもらったが、コロナの影響で会議を安易に中止や延期するのではなく、工夫して実施する方向で進めて欲しい。コロナ対策で忙しいという理由もあるが、コロナに便乗してやめることのないように。チャレンジすることを放棄してはいけない。

情報発信について、職員の意識改革が最も重要な点であり、見せ方、手段、手段に応じた伝え方、伝える最適な時間軸を徹底的に検証してほしい。教育の場においては、保護

者は結果が出るまでの間に不安となるので、中間状況の情報発信も必要。

非常時には、紙媒体を市内全域に配るのは難しい。作成から手元に届くまでに時間差がありすぎる。まだ、あんしんメールや公式ラインに登録してない人については、全員登録することを目標とすること。伝達手段の工夫が必要である。

サービス革命の推進が必要であり、原則ワンストップ・原則オンライン・原則キャッシュレスといった仕組みを考えてほしい。場合によっては、システム改修も必要かもしれない。

マイナンバーの動向について、マイナンバーそのものがどうなるかわからないが、ツールとしては重要。マイナンバーの活用が目的で、全部署が関連することだが研究してほしい。

大手に相談することも良いが、既存のシステムでも、安全に使えるものもあるので研究すること。

新型インフルエンザの行動計画について、幅広く意見を聞き、しっかり検証し、見直しを早急に行うこと。

観光について、危機管理をしっかり進めてほしい。

障害者や高齢者など弱者へのサポートについて、こちらから手を差し伸べる寄り添っていく姿勢をとってほしい。

ギガスクールについて、導入する端末をどう活用するかを待たないで考えてほしい。途中経過を含めて、子ども達の学習にどう利用していくか見えるようにしてほしい。端末を使って、何を目指すかというのは、これまでの授業より、わかりやすく楽しくなること。すぐに活用できる地ならしを精力的に進めて欲しい。

これ以降は、指示ではなく、各課報告等で気になる話。

収納課から、弁護士などへの無料相談の話がでているが、いい提案だと思うので考えてほしい。

職員のOBの活用について、偶然感染がなかったのがいいが、協力者名簿のようなものがないのか、割と重要だと考えている。名簿を確立してほしい。愛知県やほかの市町であったと思うが、有資格者（保育士等）の登録制度について考えて欲しい。

狂犬病について、コロナと関係ないが、全国的に狂犬病予防注射の接種率が下がってきているが、発症すると致死率100%と聞いた。飼っている犬でも、未登録犬もあると思う。一回検証してほしい。

整備課について、コンサルとの打ち合わせできず工期が延期になったとあるが、これは、できるだけ避けたいので、工夫するように。

ゴミの関係、直接搬入については最初停めてしまっていた。止めていいものとダメなもの判断をしっかりとる必要がある。これは止めていけない案件だった。

学校の現場で、飛沫飛散ガードがあるといいという意見があった。全学校に備えられないかもしれないが、現場が本当に必要と感じたものについては、対応していく。

次に、新成人のつどいについて、実行委員会まかせではなく、サポートを丁寧に検討してほしい。

生活保護や困窮が増える傾向にあるという報告であったが、原因に対してどうやったら

生活困窮にならないか対策をいろいろな方面と連携して考えてほしい。働ける場の提供等をきめ細かく進めてほしい。

防災監：それでは、これまでの対策会議も含め、本日までの指示等については、その対応状況の見える化を進めてほしい。

市長：今後、災害時においても指示がいろいろ出ると思うが、現状の指示結果を知りたいということではなく、仕組として見えるようにして、第2波に生かせるようにしてほしい。

副市長：とにかく気を抜かないように。まだコロナは終わっていない。感染の予防対策を徹底してほしい。

防災監：ではこれで終了する。

午前10時31分 会議終了